

次への一步

学校長 梅田 比奈子

「今度、幼稚園の子たちが来るから、ここを案内したいのですが、いいですか?」先日、職員室にこう言って1年生が来ました。そして、「職員室の中を通ってもいいですか?」と。その姿に、子どもたちの成長をととても感じました。不安を抱え、時には、その不安から泣いてしまう姿があった4月。でも、様々な経験や学びをする中で、子どもたちは確実に心も体も大きくなり、たくましくなりました。そして、それは、1年生に限らず、どの学年のどの子どもにとっても、素敵な成長の一年間だったと思います。振り返ると、いろいろなことがありました。数々の行事や日々の学習の中で、子どもたちは、真剣にいろいろな事に向き合い、考え、行動してきたと思います。地域の方からもこんなお話をいただきました。「ふれあい祭りの時に、竹馬を練習していた子どもがいてね。最初は低いのも全然できなかつたんだけど、あきらめないで、何度も何度も練習して、最後には、高い竹馬にもものれるようになったんです。その姿を見ていて、本当に感動しました。素晴らしいですね。」また、先日、薬物乱用防止教室でお話をしてくださった保護司の方からは、「子どもたちがとても素晴らしいです。話の聞き方もいいし、自分の意見をちゃんともっていて、発表していました。私も、とてもうれしい気持ちで、話をすることができました。」と言っていただきました。子どもたちの成長と共に、様々な方から、お褒めの言葉をいただいて、本当にうれしく思いました。そして、これからもっと頑張りたいと思うのが「挨拶」です。学校評価アンケートの中でも「もっと元気に挨拶して欲しい。」という言葉がありました。



朝、学援隊の皆さんと校門に立っていると、中学生や高校生になった子どもたちが学援隊の皆さんに挨拶をしていく姿に出会います。一緒にいる私まで心があたたかくなってきました。「あいさつ」は、コミュニケーションのスタートです。いろいろなまちで「あいさつ」に関する取組が行なわれていますが、それは、人と人が「あいさつ」によってつながること、そして、あいさつの多いまちは、安全なまちにつながることも伝えられてきています。かつて、子どもたちが荒れてしまった中学校で、大人や生徒会と一緒に、「あいさつ運動」を積極的に行なったことがあります。私もそこに時々参加したのですが、子どもたちの表情が少しずつ柔らかくなっていくのを感じました。自分から、なかなかいい出せない子どももいるかもしれませんが、人と人がつながる最初の一步として、これからも「あいさつ」を大切にしていきたいと思っています。



平成 30 年度が終わります。平成最後の年度、多くの人に支えられ、たくさんのことを学びました。そして、また、次の学年へとステップアップです。次への一步を踏み出す準備ができてきています。